

神奈川県高等学校定時制軟式野球選手権大会

準決勝戦へ

6月11日(土) 川崎市宮桜川球場 第1試合 10時00分

5月22日(日)、選手権大会開幕を迎え、向陽台専修学校生蘭と戦った初戦は特別な緊張を感じてはいた。その緊張を集中力にかえ、三浦翔主将を中心にチーム一丸となって戦い、勝利をつかんだ。結果はもちろんだが、練習で積み上げてきたものを活かそうとする姿勢、実際に発揮する姿が、ともに戦う仲間の士気を互いに鼓舞しているように見えた。8大会連続ベスト4入りを果たし、目標へ一歩近づいた...

夕子スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2022.5.31
第105号



間瀬智紘 (1年)



小俣愛斗 (1年)



吉田侑生 (1年)



横井華音 (3年)

練習の成果を発揮!



令和4年5月22日(日) 川崎市宮桜川球場

向陽台生蘭

橘	3000
	3400
	3x0
	100

さらに三番松岡幸騎(一年)の三塁打、四番三浦翼(四年)の二塁打と、たまたまかける先制攻撃で3点を先取りし主導権を握る。二回にも、横井華音(三年)が四球を選び、バッテリーエラ



矢部和真 (4年)

機動力野球

一回裏、先頭打者の矢部和真(四年)が四球で出塁すると、すかさず盗塁を決めて無死二塁とチャンスをつくる。さらに三塁へ走る矢部との間に三浦翔(四年)がランエンドヒットを決め、一、二番で先制点を奪う。初戦の初回から橘定野球を実践する四年生のプレーにチームは勢いにのる。



三浦翼 (4年)

0封! 全力投球で抑える

力強い投球で一安打完封!



小森愛里 (4年)

初の長打で試合を決める

仲間がつくった満塁のチャンスに走者一掃の二塁打で応える

ベスト4入りし、橘定野球部にとっては8大会連続で選手権大会を最終日まで戦えることとなる。大会は一ヶ月近く続く。日中バイト、夕方から登校して授業、そして夜九時からの部活を毎日続けることは決して簡単なことではないが、この一ヶ月の経験は誰もが勝つ上からなければできないこと。今しかできないこと、今だからできること、やらなければならぬことがある。戦い続けられることを喜びに、野球を思う存分楽しみ、一人ひとりがやり切つて完全燃笑して欲しい。

1をついて二塁へ走ると、練習してきたスライディングを決める。三浦翔の二塁打で横井がけり追加点をあげ、松岡(三浦翼、大石優希(三年)のクリーンナップでさらに得点し、この回4点を追加。エース三浦翼が生蘭打線を一安打0封に抑える力投を続けると、四回裏、クリーンナップがつくつた一死満塁のチャンスに小森愛里(四年)が応える。2ストライクと追い込まれながらもしっかりと振り抜くと、小森にとつて初の長打となるライトオーバーの一打は、走者一掃の二塁打。小森の一振りだけで3点を奪い、コールドゲームを決める。



大石優希 (3年)

練習は嘘をつかない

冬の二方スイングを自信に初戦に臨み、攻守で力を発揮!

既に選手権大会に4回、全国大会に2回出場してきた相澤奨吾(3年)は、規定により選手登録はできないが、コーチ兼マネージャーとしてベンチ入りし、ムードメーカーとしてチームを支え続ける。誰よりも大きな声を出し続け、攻撃前の円陣で皆を盛り上げ、ムードメーカーとなって勝利に大きく貢献。相澤の存在を誰もが心強く感じている...



相澤奨吾 (3年)



主将 三浦翔 (4年)

得点への執念と集中力

一年生部員の四人が入部してからまだ一ヶ月ほど。すっかりチームの一員となつて今大会を迎えた。経験のある松岡幸騎は、一塁手、吉田侑生は三塁手として初戦から内野を守り、即戦力としての活躍が期待される。松岡はこの試合、二本の長打と四球で全打席出塁し、全てホームに打てる攻撃力を見せた。また、初めて野球に取り組む間瀬智紘と小俣愛斗も熱心な練習姿勢と向上心で、短い期間の中で着実に成長してきた。間瀬は、四球で出塁すると、サイン通り盗塁を試みた。タッチアウトにはなつたが、練習してきたことを実践することができ、次戦への期待と楽しみがふくらむ...

(軟式野球部顧問 中島克己)

全打席出塁しホームベースをふむ



松岡幸騎弘 (1年)

二本の長打と四球で出塁し三得点